

2022年（令和4年） 研究業績

共同研究講座・寄付講座等名： 免疫病・がん先端治療学講座

研究代表者名： 森本幾夫

開設の目的・概要 等						
<p>免疫疾患・がん分野では分子標的治療法として、小分子化合物・抗体などが登場し、ある程度の治療効果は得られているが、より有効な新規治療薬の開発が望まれる。特にがん・免疫病領域の新薬はほとんど欧米発の薬剤で占められ、日本発の新薬は数少ない状況にある。</p> <p>そこでキッセイ薬品工業株式会社は2012年に、免疫病（自己免疫疾患やGVHD）・がん領域においてCD26分子及びその他の関連分子を標的とした基礎から臨床応用までのトランスレーショナルリサーチを行うことを研究のプライオリティーとした「免疫病・がん先端治療学講座」を順天堂大学に設立し、革新的な治療法の開発、予後及び診断バイオマーカーの確立を目的とした研究を開始した。2021年からワイズ・エー・シー株式会社が講座を引き継いでいる。</p>						
区分	番号	学位論文	著者名	論文名	掲載誌名, 掲載年; 巻(号): ページ番号	国際共同
英文原著	1		Komiya E, Tominaga M, Hatano R, kamikubo Y, Toyama S, Sakairi H, Honda K, Itoh T, Kamata Y, Tsurumachi M, Kishi R, Ohnuma K, Sakurai T, Morimoto C, Takamori K.	Peripheral endomorphins drive mechanical alloknosis under the enzymatic control of CD26/DPPIV.	J Allergy Clin Immunol. 2022;149(3):1085-1096	
英文原著	2		Hatano R, Itoh T, Otsuka H, Saeki H, Yamamoto A, Song D, Shirakawa Y, Iyama S, Sato T, Iwao N, Harada N, Aune TM, Dang NH, Kaneko Y, Yamada T, Morimoto C, Ohnuma K.	Humanized anti-IL-26 monoclonal antibody as a novel targeted therapy for chronic graft-versus-host disease.	Am J Transplant. 2022;22(12):2804-2820	○
英文原著	3		Santos MF, Rappa G, Fontana S, Karbanova J, Aalam F, Tai D, Li Z, Pucci M, Alessandro R, Morimoto C, Corbeil D, Lorico A.	Anti-Human CD9 Fab Fragment Antibody Blocks the Extracellular Vesicle-Mediated Increase in Malignancy of Colon Cancer Cells.	Cells. 2022;11(16):2474	○
区分	番号		発表者名	発表タイトル (題目・演題・課題等)	学会名, 場所, 発表年月日等	国際共同
国内学会発表	1		Shirakawa Y, Hatano R, Itoh T, Otsuka H, Okumura K, Morimoto C.	IL-26 facilitates cartilage destruction and infiltration of inflammatory cells into synovium in a collagen induced arthritis model	第51回日本免疫学会学術集会, 熊本, 2022年12月8日	
区分	番号		講演者名	講演タイトル	学会名, 場所, 発表年月日等	国際共同
特別講演・招待講演	1		伊藤匠.	がん免疫における多機能性サイトカインの役割	第19回日本免疫治療学会学術集会, 東京, 2022年5月22日	

区分	番号	発明者名	発明の名称	出願番号	国際共同
知的財産権の出願・取得等	1	森本幾夫, 波多野良, 大沼圭, 金子有太郎.	抗CD26抗体と免疫チェックポイント阻害剤との併用療法.	PCT/JP2022/021738, 2022年5月27日	